

# 地 域 再 生 計 画

## 1 地域再生計画の名称

こうげまち雇用続々プロジェクト

## 2 地域再生計画の作成主体の名称

福岡県、築上郡上毛町

## 3 地域再生計画の区域

福岡県築上郡上毛町の全域

## 4 地域再生計画の目標

(現況と課題)

福岡県の最東端に位置し、山国川を境に大分県中津市に接している。また、南は英彦山系の雁股山、大平山など豊かな自然景観が広がり、北は吉富町を隔てて遠く周防灘を拝むことができる。年間降水量は 1,500 ミリ前後と比較的少なく、温暖な瀬戸内海型気候の自然環境に恵まれた町である。平成 17 年 10 月に新吉富村と大平村が合併し、上毛町となった。

総面積 6,240ha のうち 63% (3,911ha)、特に大平地域は 70% (3,177ha) を森林が占めている。町の北部及び山国川沿いに平野が開け、その一帯を中心に農用地 19.3% (1,206ha) が広がる。主要産業である農業分野においては、この恵まれた緑豊かな自然環境と温暖少雨な気象条件を生かして、中山間地域では果樹や茶の栽培、平坦な地域では米・麦・大豆の土地利用型作物をはじめ、野菜や花きの施設園芸等、多種多様な農業が盛んに営まれている。

受け継がれる歴史も古く、かつて奈良時代豊前国上三毛郡の中心として栄えたこの地では、国指定史跡「大ノ瀬官衙遺跡」「穴ヶ葉山古墳」「友枝瓦窯跡」に代表される数多くの旧跡、また、五穀豊穰を願い神々に祈りを捧げる伝統歌舞の神楽、日本三大修験道英彦山六峰に名を連ねる「松尾山」に残された山伏の歴史や伝統文化など、地域の宝物として人々の暮らしの中に深く根付いている。

人口は、8,041 人(平成 24 年 1 月末)で、昭和 30 年を頂点に年々減少している。特に山あいには集落が点在する大平地域では、当時 7,000 人を越えていた人口が、平成 17 年には約 6 割の 4,044 人まで減少した。年齢別では、65 歳以上を除いて全体的に減少傾向にあるため、高齢者比率は 30.5% (平成 22 国勢調査) と非常に高い。平成 17 年の二村合併からわずか 6 年で 458 人が減少、今後は少子高齢化に伴う自然減の本格化により、危機感が広がっている。

基幹産業である農林業においては、基盤整備等の諸施策を実施してきたが、高齢化や米価及び木材価格の低迷等により、後継者不足や荒廃森林の増加が課題となっている。昭和 35 年に 68% 以上を占めていた第 1 次産業就業者は、平成 17 年に 12.6% まで落ち込んでおり、極めて厳しく深刻な状況だと言える。第 2 次産業は 32.4%、第 3 次産業は 55.0% へと数値のみで捉えると、就業人口が伸びているように見えるが、その実態は、農林業の低迷による他市町への通勤人口の増加が産業構造に変化をもたらしたに過ぎない。町に魅力を感じない若者層の町外流出等と相俟って、現状のままでは、今後ますます衰退の一途を辿ることになりかねない。

また、町の賑わい創出のため、平成 14 年にオープンした温泉施設「大平楽」や宿泊施設「ロ

グハウス」を中心に大池公園一帯を観光の拠点と位置付けているが、大分県観光名所に南下する際の休憩場所としての色が濃く、目的を持って訪れる客は少ない。大平楽は、年間約 20 万人が利用（平成 22 年実績）しているが、ログハウスでの宿泊はわずか 4,689 人とどまっている。

#### （地域資源のポテンシャル）

町のポテンシャルを探ってみると、自然豊かな谷あいの集落では、町を代表する清流友枝川と澄み渡る空気が棚田の米を豊潤に実らせ、肥沃な土が美味しい野菜や果樹を育てている。この地域の産物が古代から朝廷の御膝元で献上されていたといわれる所以でもあり、これらを求める愛好者の増加は、その品質を裏付けるものといえる。また、400 年以上の歴史を持つ渋柿「川底柿」は、かつて小倉藩主細川忠興に献上されていた名産品であり、地域の手で大切に受け継がれている。加工品開発も進められ、30 数年前、この川底柿を自らの手で守るべく奮起した地元有志が「柿ようかん」を完成させた。すぐにヒット商品として注目されるものではなかったが、有志による地道な活動が認められ、毎年収穫時期になると継続的に取材陣が詰めかけている。加工した商品自体もさることながら、やはり素材やその歴史的背景に人々が関心を示す傾向の表れだといえる。加えて、先人達の知恵「あおし（渋抜き）」の技法は、時代とともに新しい技術を生み出しながら今に伝えられており、珍しさとユニークさから体験者には大変好評である。農産物を活用した体験型観光の資源のひとつとして期待されるようになっている。

郷土料理「にぐい」は、地場産の農産物をふんだんに使用し、古くから盆や正月などに欠かせない御馳走として地域の暮らしの中であり、「食育」というキーワードのもとにボランティアなどによる普及活動が行われているが、その価値は内外に伝えきれていない。一方では、近年、広く名の知れた「からあげ」に注目が集まっている。いつからか「ヒトが集まる所からあげあり」と言われるほど、からあげ文化が根付いている本町には、全国展開する老舗からあげ屋の本拠地があり、30 年以上も前から地域に愛される新しい郷土の味として親しまれている。町外の各地から訪れるリピーターも多く、最近では上毛米や地卵等の地域産物を活用したヒット商品を生み出していることも見逃せない。

平成 23 年 5 月、有田地区においては、意欲ある地域住民の自発的な取り組みにより「有田地区グリーンツーリズム研究会」が立ち上げられた。巢雁山（通称「有田富士」）の麓に位置するこの地区は、遠く周防灘を一望できる素晴らしい眺望景観と、落ち着いたある田園風景を併せ持ち、すでにグリーンツーリズム実践者が存在していることや、別荘を構える都市住民が増加していることは注目すべきポイントである。昨年の都市農村交流モニターツアーでは、炭焼き体験、椎茸の駒打ち等、農家の日常を体験した参加者は、一見ありきたりの体験の中で、受入家庭のホスピタリティに深く感動し「将来、娘を上毛町に嫁がせたい」という感想が寄せられるなど予想を上回る反響があった。これは、上毛町における都市農村交流のニーズを顕現するものであり、農林業や自然環境を活用した「新しい農村づくり」を具現化する手法として注目されている。

都市農村交流のほかにも、近年では国指定の文化財をはじめとする旧跡、特に神楽や松尾山修験道場等の伝統文化について、単なる文化財保護の観点ではなく、観光資源としての活用に期待が高まっている。現に、健康志向や地域の魅力再発見をキーワードに、史跡旧跡を巡る「まち歩きイベント」が密かなブームとなっており、そこには文化財の価値を魅力的に伝えるガイド人材の育成等が鍵となる。さらには、これら文化的資源も歴史を紐解いてみると、五穀豊穡など豊かな実りに祈りを捧げる祭事や、上質な農産物が朝廷あるいは時の藩主に献上されてきた記録等か

ら、地域の農産物との深い関わりを知ることができる。こうした歴史的な意義こそが、地域の個性として、農産物の素材にも付加価値を与えるものと期待されているのである。

このように、誇れる資源と可能性を有しながらも、それぞれの価値が燻り埋もれがちになっていることが最大の課題と言える。まずは、資源の魅力づくりによる地域ブランド化の視点を持ち、各分野が連携して、地域の「宝」として誇れる資源に磨きをかけ、その価値を高めていくことができれば、状況好転の道が拓けるはずである。

#### (宝を磨いて新しい農村をつくる)

現況を打開し、地域全体の活性化を進めるためには、古くから地域経済の基盤として代々受け継がれてきた農林業を中心に、製造業やサービス業を含めた産業構造を根本から見直し、上毛町総合計画に掲げる「新しい農村づくり」を具現化していく必要がある。雇用創出の形態も、適地を持たない町内で企業誘致や工場誘致に期待するばかりではなく、これからは、自発的かつ内発型の雇用創出のモデルを増やしていくことがポイントとなる。そのためには、町の資源を見つめなおし、磨き上げることで魅力ある商品とサービスに変え、それらを巧みに社会とマーケットに伝えるノウハウが欠かせない。その実践者として、コミュニケーション能力、マネジメント能力、デザイン能力、さらには企画やプロデュース、情報技術と言った、総合的なビジネススキルを身につけた人材の育成は必須条件となる。まずは「農業=生産」といった今も根強い従来型のイメージから脱却し、「農業=経営」の視点を持った、原材料に魅力的な加工と、消費者に的確に伝えるマーケティングと広報の視点を養うことが急務である。

本計画においては、各分野から多彩な講師陣を招聘し、情報発信、販路開拓、販売促進といったビジネス戦略のサポート体制を構築し、農林産物を中心とした地域資源に対する付加価値の向上や効果的な情報発信ができるスキルを持ち合わせた創造力豊かな人材の育成を行っていく。まずは、地域をプロデュースできる創造力豊かな専門性を有した多彩な外部講師陣を招聘しながら、上毛ブランド化に向けた方法論が定着する人づくりと仕組みをつくることで、内発型の雇用創出、持続可能な活性化策を実現するものである。

#### (既存計画、関係団体との連携強化で雇用創出を加速)

現在、上毛町には、コミュニティ計画（平成20年3月策定）に基づき、身の丈の活性化策を展開する町認定の地域づくり団体が34団体存在し、熱心に活動している。団体の構成メンバーは多種多様で、「安全安心」「景観保全」「文化継承」「交流促進」「情報発信」等さまざまな角度から、町づくりへの積極的な参画が見られる。こうした意気軒昂な「上毛人気質」を持つ多くの町民を巻き込み、貴重なベクトルの散逸を防ぎ、現在すでに行われている活動と柔軟に連携を進めていくことが重要である。昨年、「住んで良かったと思える上毛町を住民の力で次世代に引き継ごう」をスローガンに、団体相互の協力体制の構築とさらなるスキルアップを図り、上毛町地域づくり協議会が設立されたことは、本計画推進の追い風になるものと期待されている。加えて、本事業の中核を担う可能性の大きな地域づくり団体をはじめ、商工会、観光拠点となる道の駅や温泉施設等との連携も強化しながら、雇用創出への努力が、ひいては「上毛ブランド」の確立で地域活性化が達成できるよう、相乗効果を狙っていきたい。

○ 雇用の目標における指標

- |                            |     |
|----------------------------|-----|
| ①本計画による、新規雇用者数の合計（計画期間終了時） | 45人 |
| ②本計画による、新規創業者数の合計（計画期間終了時） | 13人 |

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

①ブランド化の視点を持ち地域をコーディネートできる人材の育成による就職促進

地域の農産物や自然、歴史などの地域資源に高い付加価値を付け、魅力ある商品やサービスの開発、また、魅力ある産業へと転換できる創造力豊かな人材を育成し、就職を促進するとともに、これを新しい産業として創出する。

②体験型観光の体制づくりによる就職促進

地域の特性を活かした農村体験や史跡めぐりなどの体験型観光を推進するための受入れ体制づくりや、地域のガイドを育成することで、観光振興につなげる。

③地域の魅力あふれる情報を発信できる人材育成による就職促進

デザインや情報技術を活用した情報発信が効率的かつ効果的にできる人材を育成、また空き家などを活用した情報の発信拠点をつくり、そこで加工品の試験的販売や各種体験ができる体制をつくることにより、地域の魅力を発信する。

### 5-2 法第5章の特別の措置を適用して行う事業

該当なし

### 5-3 その他の事業

#### 5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

① 支援措置の名称と番号

「実践型地域雇用創造事業」（B0906）

② 実施主体

上毛町ブランド創造協議会

③ 構成団体

上毛町、上毛町商工会、上毛町地域づくり協議会、道の駅しんよしとみ遺跡前株式会社大平楽

④ 実施を希望する期間

平成24年度から平成26年度まで

⑤ 行おうとする主な事業

イ 雇用拡大メニュー

(1) 上毛の御宝磨き研修事業

① ビジネス・マネジメント実践研修

企業の競争力を高めるコミュニケーション能力、業務管理能力など、ビジネス全般に必要な知識と事業コーディネートのノウハウを研修する。

② デザインと情報技術のカフル活用研修

事業分野問わず、デザインと情報技術活用の重要性、可能性を理解する。デザインの

基礎から、商品開発ワークショップ等まで行い、あわせて、SNS やブログ、ネットショップの活用方法について研修する。

### ③上毛ブランドづくりの実践研修

テーマ別の研究会を設置し、名産川底柿や上毛米等の特産品をはじめ、規格外の一次産品に高い付加価値を生み出すための企画と技術、郷土料理の「にぐい」と新しい郷土の味「からあげ」のマッチング、さらにパッケージデザイン等、ブランド化に必要な研究を行う。

### ④上毛の魅力を伝える観光の拠点づくり研修

国道 10 号が横断するという地理的条件を活かし、風情ある農村暮らしを気軽に体感できる着地型観光の企画開発と実践、集客アップのための空間づくり、定住希望者受入に必要な研究を行う。

## (2) 上毛ブランドの成果発表会

事業主および創業予定者等を対象に、雇用創出実践メニューによって開発された上毛米や川底柿の加工品、あるいは、体験型観光ツアーといった商品のノウハウを広く御披露目するために成果物の発表会を開催し、波及効果をねらっていく。

## ロ 人材育成メニュー

### (1) 地域人財レベルアップ研修事業

#### ①ビジネス・マネジメント力向上研修事業

コミュニケーション能力、業務管理能力など、ビジネス全般に必要なスキルアップをはじめ、ブランディング、販売戦略の研修により地域をリードする人材を育成する。

#### ②デザイン活用基礎研修事業

事業分野を問わず、デザインの重要性、可能性を理解し実践する研修を行う。

#### ③情報技術の活用基礎研修事業

情報技術活用の基礎を学び、情報発信力と訴求力を兼ね備えた人材を育成する。

### (2) テーマ別レベルアップ研修事業

#### ①上毛ブランドづくりの担い手育成研修

農産物等の一次産品や郷土料理など、町の資源に高い付加価値を生み出すための発想と技術、これらを活用してブランド化するために必要な知識を備えた人材育成を行う。

#### ②上毛の魅力を伝える旅づくり研修

旧跡めぐりやホテル観賞ツアー等、文化財や自然を活用した観光アドバイザーやおもてなしの心を兼ね備えたガイド育成等の研修を行う。

## ハ 就職促進メニュー

### (1) 就職・就業相談事業

管轄のハローワークと連携して、就職・就業に関する相談会を開催する。また、人材の受入れ情報の提供を行う。

### (2) 企業合同面談交流会

企業との雇用マッチング促進のため、交流会や面談会などを積極的に開催する。

### (3)情報発信事業

情報技術などを活用し、公式HPやブログ、SNS、プレスリリースを利用して、本事業とその進捗状況をアピールし、直接間接的な就職支援を行う。

## ニ 雇用創出実践メニュー

### (1)商品開発事業

人材育成メニューにおける成果をもって、さらなる商品開発、販路拡大を目指し、より高度な実践ノウハウを定着させ、戦略的な情報発信とともに起業化を促進する。

①製造技術の開発、デザイン制作、サンプル生産

②ブログ・HP制作支援

### (2) 着地型観光ツアー開発事業

自然、歴史、伝統文化、食や農業体験、地域の人材を活用した旅行商品づくりを行う。大手旅行会社と提携、あるいは、観光の拠点となる温泉施設等において第三種旅行業の取得を目指すなど、着地型観光ツアーの実施により「上毛らしさの旅」を積極的に打ち出していく。

①モニターツアーの企画・実施

②広告宣伝

### (3)販路開拓事業

全国規模で開催される展示会への積極的な参加や主催などで、流通業者やバイヤーとのマッチングを仕掛けていく。また、個別にターゲットとなる具体的な企業や店舗を対象に、販売ルート確立を図るほか、情報発信において多大な影響力を持つメディア（テレビ、雑誌社など）への働きかけ、産業振興協議会等の公的機関との連携を視野に入れながら進めていく。

①展示会への出展、展示会の主催、その他マッチングイベント開催

②販路開拓のための営業活動と連携

③商品PRサイト制作

### (4)インキュベーション拠点の確立

事業終了後も継続して、地域の人材を磨き、起業家を育てながら上毛ブランドを育てていくためには、地域に立脚した地域コーディネーターが必要である。インキュベーション施設を確保し、そこにコーディネーターを配置することで、商品開発の相談、デザインの相談、ブログやサイト開設など情報技術活用の相談体制を作り、ブランドづくりと雇用創出の拠点を目指していく。

①企業家たまご事業（インキュベーション施設の確保）

②情報技術・デザイン相談事業

## 5-3-2 その他支援措置によらない独自の取り組み

### (1)上毛町コミュニティ計画に基づく地域づくり活動事業（H20年～）

#### a 内容

① 地域づくり活動団体支援事業

② 地域づくり情報誌「上毛のいぶき」発行

- ③ 地域づくりステップアップ研修、交流会
- ④ 上毛町地域づくり協議会事業
- b 実施主体
  - 上毛町、上毛町地域づくり協議会
- c 事業規模
  - 7,845,000 円（平成 24 年度予算）
- d 成果
  - ①については、上毛町コミュニティ計画を具現化するため、「88 プロジェクト」に沿った地域づくり活動を行う団体に対して補助金を交付しており、これまで 34 団体が町の認定を受け、28 プロジェクトを実施している。
  - ②については、地域づくり団体の活動をクローズアップして紹介するなど、季刊誌として「上毛のいぶき」を発行している。地域づくり団体のシンボルとなる情報発信ツールであり、自らの活動が広報されることで、さらなるやりがいに繋がっている。
  - ③については、平成 23 年度からは、団体の活動継続に主眼をおき、地域づくりに係わる団体の相互交流、レベルアップを目的として開催しているものであり、外部講師を招聘し研鑽を積んでいる。各団体が連携した横断的なイベントも行われるようになっている。
  - ④については、団体相互の協力関係の構築、一層のレベルアップを目指して、中間支援組織として新たに「地域づくり協議会」が設立された。27 団体が所属しており、「いぶきの里」を活動拠点に、団体間の交流や情報発信を行うことで、住民自治のまちづくりの体制づくりを進めているところである。

## (2)上毛町食育基本計画の推進

- a 内容
  - 上毛町食育のまちづくり推進計画に基づき「生涯を通じた健全な食生活の実践と継続」、「食育を核とした地域コミュニティの創生」「食育を通じた農林水産業、観光産業の振興」の 3 つの視点でプロジェクトを展開。
- b 実施主体
  - 上毛町、上毛町食育のまちづくり推進協議会
- c 事業規模
  - 2,200,000 円（平成 24 年度予算）
- d 成果
  - 昨年度までに、上毛町の食文化と地産地消をテーマに食育メニューを開発し、レシピ集を発刊している。食育関係者の人材育成と情報発信を強化し、農産物活用による観光振興の基盤づくりを進めている。

## (3)住みたい上毛町推進プロジェクト

- a 内容
  - 上毛町の魅力ある資源（自然、歴史、伝統文化、ヒト、モノ）を活用した移住交流施策の研究と体験交流プログラム等の試行を行い、効果的な情報発信と併せて、実効性の

ある制度構築による賑わいづくりを図っていくものである。

b 実施主体

上毛町

c 事業規模

1,880,000 円（平成 24 年度予算）

d 成果

平成 23 年度は、地域の特性を活かした体験交流プログラムのモニターツアーを行い、上毛町における都市農村交流の可能性を探るとともに、地域人材の発掘と育成を行った。また、告知については、情報誌や ICT を通じて福岡・北九州都市圏へのアプローチを行った結果、申し込みが集中するなど、メディア活用の効果を検証することができた。平成 24 年度からは、空き家等を活用したお試し居住事業に着手し、移住交流のさらなる可能性を追究していく。

(4)京築連帯アメニティ都市圏推進会議との連携

a 内容

福岡県と京築地域の 7 市町は、個性を磨き、魅力ある地域として一体的に発展していくことを目標に掲げ、平成 19 年 2 月、京築連帯アメニティ都市圏推進構想を策定した。この構想を具現化するため、地域資源を活かした 5 つの戦略的プロジェクト（産業、教育、文化、景観、情報発信）を展開している。

b 実施主体

京築連帯アメニティ都市圏推進会議

c 成果

戦略的プロジェクトのひとつである「産業の力」向上プロジェクトにおいて、京築地域ブランド化の確立のため、「京築ならではの」の新商品開発や既存商品の魅力向上、日帰り・宿泊滞在型観光の開発などを行っている。平成 24 年度以降、本計画により育成された人材や開発された企画・商品を同推進会議において実施する事業で活用することを通じ、「上毛町」の魅力を広範にアピールしイメージ向上を図る。

6 計画期間

認定の日から平成 27 年 3 月末まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

4 に示す地域再生計画の目標については、管轄の公共職業安定所の協力を得た企業就職者数の把握、各事業を利用した求職者等へのアンケート調査、上毛町ブランド創造協議会を構成する地域団体による創業者数の把握を行い、各年度の終了後、当該協議会において評価や改善すべき事項の検討を行う。